

# Part 2

## 安全・安心化により働く人のウェルビーイングの向上を実現するグローバルな新潮流

—ここ数年の国際会議でのテーマを振り返り、NECAがリードして進めてきた安全・安心の将来を展望する—  
日本電気制御機器工業会 (NECA) 副会長 藤田 俊弘

### 1. はじめに

IoT、ロボット、モビリティ、人工知能等の進展により、世界は今「第4次産業革命」の真只中にあり、日本政府並びに経済産業省はデジタル化やSociety5.0を推進し、NECAもその一翼を担うべく2017年から「5ZEROマニュファクチャリング」を積極的に推進している。NECAでは1999年に開催した国際安全シンポジウムを皮切りに制御安全委員会を設置し、20年以上に亘って今までに226回の委員会活動を行い、働く人に向けての安全モノづくり（安全技術・安全機器）に関する活動に加えて、安全コトづくり（資格制度等のモノづくり、国際標準化・国際認証の仕組みづくり）を包括的に推進し、NECAの3S活動（Standardization, Safety & Sustainability）の中核を担ってきている。

図1に、筆者が安全・安心の新潮流を考察するために、ここ数年に及び世界、日本、そしてNECAにおける3種の動きについて重要と位置付けているトピックスをまとめた図を示す。この20年のNECA活動を通じて感じることは、第4次産業革命の流れを受け、グローバルに新しい安全・安心の考え方や概念が生まれつつあり、潜在していた社会ニーズが大きな潮流となり顕在化し始めていることである。

特にコロナ禍を経て、働く人のウェルビーイングを重要視する考え方が、ESG、SDGsの観点からも湧き上がりつつある。NECAでは欧米の安全専門家を招き国際安全シンポジウムを図1に示す様に2016年、2018年と二度主催してきた。特に2018年には図2に示す様に、Vision Zeroの提唱者であるDr. Gerard Zwetsloot氏をオランダから招待し、NECA主催のシンポジウムで、世界で初めて「協調安全Safety2.0とVision Zeroの連携推進」に関する討議を行い、これをきっかけに世界が協調安全の重要性を理解する素地を作ったと考えている。

Vision Zeroとは、企業や組織にとっての安全を、「対応型」ではなく「先見型」に変革しようというマインドセットであり、働く人の「安全・健康・ウェルビーイング」を実現するというレベルにまで目標を上げ



図2 NECA 国際シンポジウム 2018

て、“トップダウンで一体的に取り組もう”という世界的キャンペーンであり、現在15,000を超える企業、機関や人々が参画している世界的な潮流である。災害ゼロと健康的な働き方のための経営者・管理者向けのガイドブックとして“7つのゴールデンルール”が具体的に明示され、20ページに及びチェックリストとして110の質問項目が示されている。Vision Zeroのホームページには、Vision Zeroに賛同、推進する人々が紹介されており、政府、安全機関のトップ、また世界中の多くの先進的な企業、すなわちC.S.O. (Chief Safety Officer) がこのVision Zeroの活動を推進していることがわかる。NECAも賛同者として名を連ねている。

また、Vision Zeroの歴史的な起源は、日本企業が1970年代から熱心に取り組んだ「ゼロ災活動」にあることが認識され、日本の大いなる誇りともいえるのである。海外から見れば、日本のゼロ災推進企業はVision Zero推進の先駆者であるとも認識されている。

ここでは、ここ数年の国際会議等での討議内容を顧み、世界の潮流を説明すると共に、今後世界が取り組むテーマや考え方をNECA副会長並びに制御安全委員長の立場から展望する。

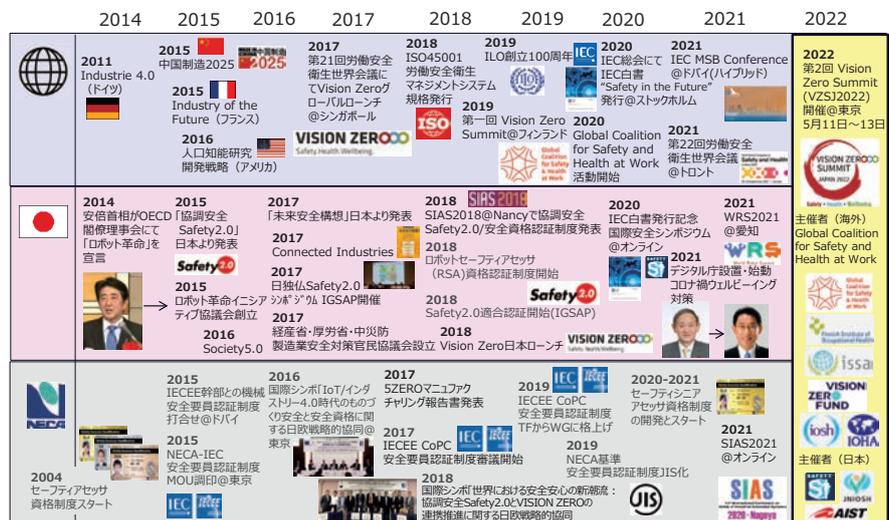


図1 安全安心に関わる国内外並びにNECAの動き

## 2. SIAS 2018での日本からの発表内容



図3 2018年フランスSIAS国際会議で日本から協調安全の提唱

NECAは、後述するように2021年にSIAS国際会議を主催したが、そのきっかけとなったのは前回2018年フランスのナンシーで開催されたSIAS会議で、図3に示す様に、IGSAP会長の向殿政男氏（明大名誉教授）から、日本が考える協調安全Safety2.0の概念を世界に初めて発出し、世界が多くの関心を持ったことに端を発している。協調安全とは、人・モノ・環境が、情報を共有することで協調して安全を構築する安全の概念であり、Safety2.0は情報通信技術（ICT）等を活用し、安全を確保する協調安全の技術的方策である。

安全の考え方は、時代と共に変遷してきた。Safety0.0、1.0、2.0の考え方の違いを分かりやすく表現したものが図4に示すライオンモデルである。1980年代頃は、危ない機械であっても人が注意して事故に遭遇しないようにする人の注意による安全「Safety0.0」が主流であった。しかし、人は間違えるものなので、2000年頃からは機械システムの設計により安全を確保するという「Safety1.0」の考え方に移行してきた。これでも、安

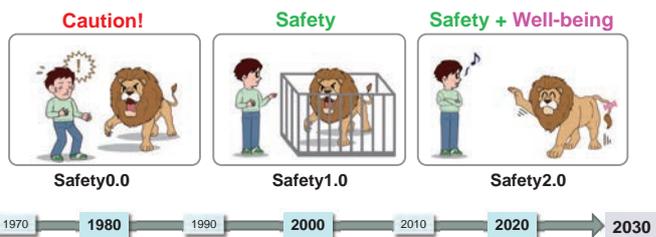


図4 安全構築の考え方が技術の進化により20年ごとに変遷していることを示す図（ライオンモデル）

全は構築できても必ずしも生産性が上がるとは言えないこともあり、ここ最近の考え方は、新たな安全安心方策を施した上でライオンを檻から出し、人と同じ環境で共存させようとするのが「Safety2.0」である。Safety2.0を活用した協調安全による安全化は、ものづくり分野だけでなく、土木・建築、農業、医療・介護、社会インフラ分野や住宅等、広範囲に適用可能である。

このSIAS国際会議で、NECAからは図5に示す様に、安全コトづくりとしての人づくり、すなわち人のコンピテンシーを資格化するセーフティアセッサ資格制度の実績と、それを様々な分野へ展開する重要性をNECAの立場で筆者が講演した。詳細は紙面の関係上触れないが、このように技術的な進化だけではなく、人のコンピテンシーを含めて同時に推進するホリスティックアプローチの重要性を考えるきっかけとなったのが、SIAS2018であったと考えている。

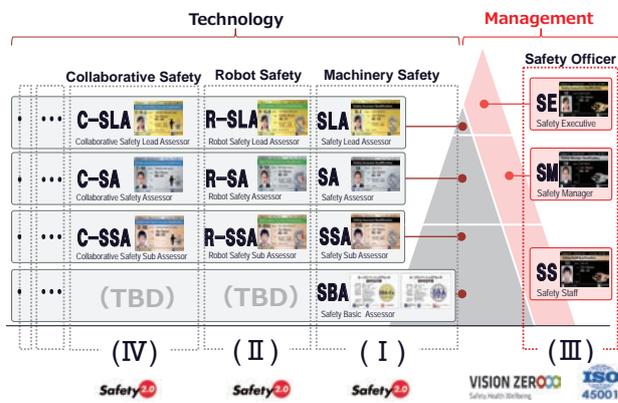


図5 NECAが開始した制度を礎として発展している安全要員資格認証制度（安全コトづくりとしての人づくり）



向殿 政男、(一社)セーフティグローバル推進機構 (IGSAP) 会長、明治大学名誉教授

9<sup>th</sup> International Conference on Safety of Industrial Automated Systems (SIAS 2018) 10-12 October, Nancy, France  
 "Japan's approach for the realization of Future Safety Concept by implementing collaborative safety technologies"  
 (要旨) 人と機械と環境がICTで繋がることで働く人々の安全・安心・ウェルビーイングを向上する協調安全という新しい考え方が萌芽してきており、新しい安全の夜明けがやってくるので、是非世界が連携して推進していきたい。  
 (参考動画) <https://institute-gafety.com/news/20210407-1926/>



明治大学



藤田 俊弘、(一社)日本電気制御機器工業会 副会長 (一社)セーフティグローバル推進機構 理事、IDEC株式会社技術経営担当常務執行役員

9<sup>th</sup> International Conference on Safety of Industrial Automated Systems (SIAS 2018) 10-12 October, Nancy, France  
 "Development of Human Resources in Safety in the Fourth Industrial Revolution Period: Current Status of Safety Assessor Qualification System and the Future Development Prospect in the Fields of Robotics, Corporate Management, and Collaborative Safety"  
 (要旨) 安全をしっかり理解する人材育成とその資格化がVision Zeroの7 Golden Rulesからも世界的に重要であり、国際標準化を推進しており、技術者も管理者も共に包括的に安全を推進する時代となった。  
 (参考動画) <https://institute-gafety.com/news/20210818-1989/>, <https://institute-gafety.com/news/20211112-2030/>



### 3. 第1回Vision Zero SummitやVision Zero and the Great Reset会議ワークショップでの討議内容

前述の議論からも分かるように、ICTの進展により様々な機器を使いこなして安全性を高めながら生産性を高め、なおかつそこで働く人のウェルビーイングをも向上していこうという考え方が生まれている。国連の進めるSDGsは2030年までに世界中の人々のウェルビーイングを向上するという大テーマが掲げられているが、この協調安全/Safety 2.0はまさに軌を一にして働く環境にある多くの人々の安全とウェルビーイングを向上しようという考え方に基づいている。

第1回Vision Zero Summitは、Vision Zeroという「働く人の安全、健康とウェルビーイング」を実現するという考えをベースに、2019年11月に初めてフィンランドで開催された。日本から向殿教授や筆者を初め8人が協調安全や関連事項の実施例等を発表し、世界に対して日本の推進内容は非常に大きなインパクトを与えた。なかでも建設業界におけるトンネル工事への協調安全の実施例は、世界から多くの関心を集めた。清水建設河田孝志氏からの発表内容の抜粋を図6に示す。

建設業界では現場の環境が日々変化すると共に、人と機械を隔離することが難しく、事故の削減は人の注意力に頼ってきた(Safety0.0)。そのため、建設業は他産業に比べ、重篤災害が比較的多い状況にあったが、「Safety2.0」技術の導入により作業環境を改善しようと試みられ始めており、実際、トンネル工事の現場にSafety2.0技術を導入することで現場作業員の安全性やウェルビーイングが大幅に改善された(図6)。

この発表は世界にインパクトを与え、Vision Zeroキャンペーンを開始した元ISSA事務総長であったKonkolewsky氏が協調安全の重要性に対し直ちに共感し、Vision Zeroの7つのゴールデンルールを推進することで安全・健康・ウェルビーイングを実現するために、協調安全は必須であると明言し、2021年に開催された“Vision Zero and the Great Reset”国際会議のワークショップでは、図7に示す様に、Vision Zeroと協調安全は連携しながら同じ目標に向かって山を登ってい

Conducted a questionnaire to 32 employees at the site of the introduction of Safety2.0 technology to see any change in party attitudes before and after the certification is acquired



図6 Safety 2.0 適合システム導入後の現場作業員の安全に対する意識の変化

くためのものであると結論付けており、まさに2018年に確認したことが結実してきている。

第1回Vision Zero Summitの開催中、Vision Zeroのさらなる発展をめざしてGlobal Coalition for Safety and Health at Work(労働安全衛生のためのグローバル連合)が発足し、Task Group Vision Zero at the enterprise levelが設置された。このグローバル連合は国際労働機関(ILO)が事務局を務め、世界保健機関(WHO)、国際労働衛生委員会、欧州委員会、欧州安全衛生庁など、主要な国際安全衛生機関を結集させており、国連、G7、G20諸国、欧州連合(EU)の労働安全衛生の向上に関する取り組みの導入によって世界中の労働環境を改善するための現実的な解決策を広めることを目的としている。

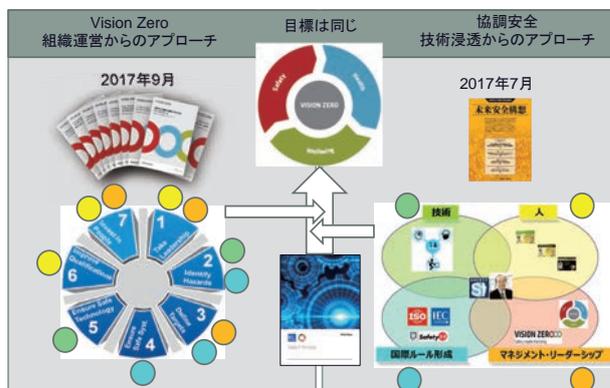


図7 Vision Zero と協調安全の目指すところは同じであることを示す図。Safety, Health, Well-beingを目的に、リーダーシップによる組織運営アプローチ(左)と技術目線からのアプローチ(右)



**河田 孝志、清水建設株式会社 土木総本部 顧問、(一社)セーフティグローバル推進機構 (IGSAP) 理事**  
**Vision Zero Summit Helsinki 2019 12-14 November, Helsinki, Finland**  
*"Introduction of Safety 2.0 and Shimizu Smart Tunnel System to Improve Productivity and Safety"*  
 (要旨) 日本の建設現場では、国土交通省のリードによりi-constructionにより生産性を25%向上する活動を推進しているが、その現場では安全性の同時実現のためにもSafety2.0導入は不可欠である。清水建設のトンネル工事現場ではSafety2.0適合認証を取得し、現場で働く人の安全性やウェルビーイングも向上できており応用を拡大していきたい。  
 (参考動画) <https://institute-gsafety.com/news/20210818-1989/>





**Mr. Hans-Horst Konkolewsky, President, ORP Foundation, Vision Zero アンバサダー**  
**Vision Zero and the Great Reset for Americas 2021 13-15 July 2021**  
*Changing the Mind-Set about Protecting and Promoting Health and Sustainability*  
 (要旨) 世界の企業はCovid-19を経験したことであらゆる価値観が変化してきており、この“Great Reset”のタイミングで、Vision Zeroの推進は企業の価値を新たに提供できると考えている。特に、日本から提唱され、様々なフィールドで実践されている協調安全 Safety2.0は7 Golden Rules推進の最も重要な革新を提供できると考えており、世界への浸透を推進していきたい。  
 (参考動画) <https://institute-gsafety.com/news/20210701-1978/>




#### 4. IEC White Paper “Safety in the Future” の発行 (2020) とIEC MSB Conference in Dubai (2021)

国際電気標準会議IEC (IEC: International Electrotechnical Commission) のMSB (Market Strategy Board) においても協調安全の重要性について理解され、経済産業省のバックアップと共に堤和彦 IEC副会長のリードにより“Safety in the future”すなわち、“協調安全を活用した将来の安全の姿”が2020年11月、日本のリーダーシップにより発行された。前ページの図7でも一部示したが、IEC白書では、協調安全技術が国連のSDGs、Vision Zero、そしてNECAが提唱している5 ZEROマニファクチャリング実現の為の根幹になるとということが図8のように示され、世界的に発信された。

図4で示したライオンモデルに基づき、IEC白書では、人・機械・環境がICTで結びつくTripartiteシステムとして図9に示すモデルが協調安全のシステムとして明示されており、今後世界への浸透が図られることが期待される。

実際、IECの厚意により、IEC総会がドバイで開催された2021年10月に、IEC MSB Conferenceが開催され、“Safety in the Future”をメインテーマとして協調安全の未来が討議された。図10にプログラム内容を示すが、このシンポジウムは関心と呼び、IECの会長並びに3人の副会長も同時に出席のもと開催された。筆者や梶屋俊幸氏もIEC白書執筆者の立場でここで講演したが、特筆すべき事項として、ドイツのIFAのディレクターのProf. Dr. Dietmar Reinert氏から、基調講演が行われた。ドイツのIFAは1990年代から様々なISOやIECの安全規格の体系化(いわゆるA規格、B規格、C規格の安全規格体系)のリーダーシップを取ってきた機関であるが、そのトップのReinert氏から、“The Power of Digitalization: Collaborative Safety as an Element of Safety”と題して、ライオンモデル図(図4)を用いて、Safety0.0、Safety1.0、そしてsafety2.0の事例が示され、これからの協調安全への期待感が述べられた。また特筆すべきは、技術側面だけではなく、ドイツでもVision Zeroを車の両輪のように推進しており、PLI (Proactive Leading Indicator) の



図8 IEC MSB 白書“Safety In the Future”に記載された5ZEROマニファクチャリング

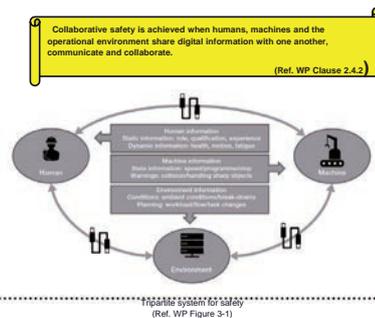


図9 IEC白書に記載されたTripartiteシステム

重要性や安全人材の育成が協調安全の浸透には不可欠であるという話があり、まさにIEC白書で述べている、技術・人材・マネジメント・ルール形成を推進するホリスティックアプローチが不可欠であることを日本だけではなくドイツの権威者からも述べられたことは、日本にとって大変力強いパートナーを得た感があった。またIECが主催するドバイ会議でホリスティックアプローチが討議されたのは意義深い。NECAはコンピテンシーに2004年から注目して、セーフティアセッサ資格制度と



図10 IEC MSB 会議“Safety In the Future”のプログラム内容



**堤 和彦、IEC (国際電気標準会議) 副会長、三菱電機株式会社 特任技術顧問**

IEC General Meeting, Conference on the Market Strategy Board “Safety in the Future”, Dubai, UAE, 6 October 2021.

(要旨) IEC MSBは10年後の世界を俯瞰し、国際標準化の方向性を議論してきているが、2020年に発行したIEC白書“Safety in the Future”は、MSB、SMB、CABのすべてのIEC組織で関心が高い。標準化は様々なステークホルダーと共に考えていく時代になったと認識しており、積極的な連携を今後も推進していきたい。

(参考動画) <https://www.youtube.com/watch?v=zf3bkoBqNP4> in <https://www.youtube.com/c/IECstandards/videos>



**Prof. Dr. Dietmar Reinert, Director, Institute for Occupational Safety and Health of the German Social Accident Insurance**

IEC General Meeting, Conference on the Market Strategy Board “Safety in the Future”, Dubai, UAE, 6 October 2021.

“The Power of Digitalisation: Collaborative Safety as an Element of Safety”

(要旨) デジタル技術の進展により協調安全Safety2.0は今後不可欠となってくるが、単に技術の追求だけではなく、Vision Zeroに示されるようなPLI (Proactive Leading Indicator) の導入や安全の本質を理解する人材育成も同時に重要となってきている。すなわち、これからの安全は、協調安全とVision Zeroが重要と認識している。

(参考動画) <https://www.youtube.com/watch?v=zf3bkoBqNP4> in <https://www.youtube.com/c/IECstandards/videos>



いうものを作り上げてきたが、それは世界が求めるコンピテンシー（要員力量）のスターティングポイントとなったと言え、これもNECAとして誇るべき成果である。

## 5. NECAが主催開催した第10回SIAS会議

2007年以降、14年ぶりに日本開催となった第10回SIAS国際会議でも、単に技術だけではなく、マネジメントや人材、ルール形成をホリスティックに新しい考え方に進化させていく重要性が議論された。特に図11に示す様に、従来のSIASと比較して様々なスピーカから技術的側面に加えて、マネジメントや人材側面の話題が多く、Vision Zero並びに協調安全に関するパネル討論も行われ、筆者もVision Zero討論に参加したが、世界が軌を一にして進んでいることを実感した。

特に、企業トップの基調講演が2件あり、トヨタ自動車の河合満おやじ氏、BMWのManfred Schoch氏から企業トップの立場で安全に対する考え方が述べられた。

2件とも素晴らしい内容であり、すべてをここで紹介することはできないが、トヨタ自動車の河合氏からは、豊田英二氏により作られた「トヨタ安全衛生基本理念」を礎として、トヨタの健康安全とモノづくりの基本的な考え方や人づくりについて紹介があった。特に印象的であったことは、トヨタでのトップダウンというのは、社長はもちろんのこと役員全員、トップが現場に降りていくことであり、そしてそこで第一線の現場で働く人に、現地現物で安全第一を意思表示し、働く人の頑張りを褒めて励ます、という考え方が語られ、大いに反響を得ていた。また筆者が感銘を受けた河合氏の言葉は以下である。

『私が思う「プロ道」であります。高い専門性と人間力を兼ね備え、常に限りない努力、そしてあらゆることに挑戦し続ける人だと思います。社長がよく言う、100点を取る人と成績のいい人より、1点にこだわる人、こういった人が頼もしいと申されています。100問の、最初の1問、大変難しい無理難題、これを飛ばして後のたやすい99点を取る。1から逃げずにそれに挑戦した人は1点、それを避けて通った人は99点、どちらがすごいでしょ。』

会社の中ではその1点、目の前で起きている大変なこ



図11 SIAS 国際会議 2021の全体像と主たる講演者

と、そういったことにも挑戦する、そしてやり続ける、助け合って皆でなんとかする、こういったことが最も大切だと思います。そういう姿が、大変頼もしい先輩や上司であり、「あの人のようになりたい」と背中を見てもらえる人になれると思っております。」素晴らしい話であった。

一方、ドイツBMWのSchoch氏からは、講演タイトルとして、“Safety, Health and Well-being-Main Pillars in the Business Strategy of BMW”と題した講演があった。Safety, Health and Well-beingという3点セットでの推進は、Vision Zeroが掲げる働く人への実現目標であり、ドイツを代表する企業のトップからこの3本柱がBMWのビジネス戦略であるという講演は大変インパクトを与える内容であったと感じた。Schoch氏は、Chairman of the BMW Groups Works Councilを務めることもあり、またVision Zeroキャンペーンを推進するISSAの理事でもあることから、大所高所の話があった。またBMWの工場における人-ロボット環境や協働ロボットの活用、バーチャルファクトリー、AR・AV、また人工知能技術の応用例等の紹介もあり、ロボティクスの進展やAI技術が当たり前のように使われる時代となっていることが実感できた。

日本並びにドイツの企業のトップからの講演は非常に興味深く、今回NECAが主催したSIAS会議が大変有意義となることにご貢献頂いた事に主催者として感謝している。



河合 満、おやじ Executive Fellow、トヨタ自動車株式会社

10<sup>th</sup> International Conference on Safety of Industrial Automated Systems (SIAS) July 6-7, 2021, Japan

“Monozukuri Manufacturing is Development of Human Resources”

(要旨) トヨタ自動車では、トップダウンというのはトップが現場の第一線に降りて行って働く人を激励し、共に考えて進んでいく事を意味している。ものづくりは設備に先端技術を導入するだけで済むのではなく、そこからたゆまぬ改善を日々推進して進化させる、それを具現化できる人づくりが肝である。

(参考資料) <https://ja.wikipedia.org/wiki/河合満> <https://global.toyota/jp/newsroom/t-road/25325588.html>



Mr. Manfred Schoch, Chairman of the BMW Groups Works Council, Deputy Chairman of the Supervisory Board of BMW

10<sup>th</sup> International Conference on Safety of Industrial Automated Systems (SIAS) July 6-7, 2021, Japan

“Safety, Health and Well-being - Main Pillars in the Business Strategy of BMW”

(要旨) 私はBMWに40年以上勤めており、経営者として長年安全の責任者を勤めているが、安全・健康・ウェルビーイングの実現をBMWの重要戦略として推進しており、特に従業員の責任、企業の責任を明確化し、企業文化として全員がリーダーシップを持って進めるように様々なイニシアティブを推進している。(参考資料) [https://de.wikipedia.org/wiki/Manfred\\_Schoch](https://de.wikipedia.org/wiki/Manfred_Schoch)

## 6. 第2回Vision Zero Summitの東京開催 (2022年5月)



図12 Vision Zero Summit 2022  
(<https://japan.visionzerosummits.com/ja/>)

2019年の第一回Vision Zero Summitのフィンランドでの成功を受けて、2022年5月11日～13日に第2回サミットが図12に示す様に日本で開催される。国連の専門機関ILOがリードして2019年に設置されたGlobal Coalition for Safety and Health at WorkにおけるTask Group Vision Zero at the Enterprise Levelが主催者として企画、推進を担い、そのTGの責任者を務めるTommi Alanko氏 (FIOHディレクタ) がリードしている。

Vision Zeroというのは安全・健康・ウェルビーイングを実現していこうというマインドセットであり、この考え方を世界に浸透させるため、SDGsと同様に2030年頃をターゲットとして10年程度の計画で、世界各地でVision Zero Summitを開催することが検討されており、その第2回目に日本で開催されることは大変誇らしいことと感じている。世界の安全安心コトづくりに取り組んできたNECAも、様々な局面で世界に影響を与えており、NECAも後援者として大いに関与していく所存である。

日本から発出している、協調安全という考え方を世界に大きく発信し、中核テーマとして議論されるように、図13、図14に示す様な、技術-人材-マネジメント-国際ルール形成の4つのホリスティックアプローチの重要性を議論することになっている。

既に、<https://japan.visionzerosummits.com/ja/>で示されているように、世界中の機関や企業からの

VISION ZERO SUMMIT JAPAN 2022		2022年5月11日(水)～13日(金) Web開催
第1日目 5月11日(水)		テーマ:ニューノーマルにおける安全・健康そしてウェルビーイング ・企業におけるビジョン・ゼロの実施 =ビジョンからリアリティへ= ・グローバルなサプライチェーンをより安全に ・モビリティ・自動車・無人搬送車 (AGV) ・建設と OSH 安全性と生産性の向上 ・感染症対策の経験から学んだ健康・衛生の在り方
第2日目 5月12日(木)		・未来のビジネスリーダー =より健全なパフォーマンスと生産性= ・前向き先行指標 (PLI) の活用がビジョン・ゼロを推進する ・ヒューマンファクター ・ロボット工学と協働安全 ・製造業における現場での安全衛生活動 ・ウェルビーイングと SDGs (ESG)
第3日目 5月13日(金)		・教育、オンライン学習、資格認定を通じた労働安全衛生 (OSH 能力)の向上 ・安全、健康とウェルビーイングのための国際標準化 ・AI/ICT とデジタル化 ・アグリカルチャー (農業) における労働安全衛生 (OSH) 文化の構築 ・国家戦略としてのビジョン・ゼロの推進

図13 VZSJ2022のセッションタイトル

180件にも及び最新動向や様々な取組みの発表が行われる。

具体的な例を挙げると、国際ルール形成が今後極めて重要であることから、IECEEの梶屋俊幸氏が「安全・健康・ウェルビーイングを実現するための国際標準化」セッションを主催し、IECやISOの幹部も多数参画し、今後の方向性を議論されることになる。

NECAとして精力的に取り組んできている5 ZERO マニファクチャリングの目的も、5 ZEROの実現により生産性を向上させると共に、働く人の安全・健康・ウェルビーイング向上がその上位にあることから、世界に一層普及することを目的に、国際標準化や人材の資格化の進展も推進し是非ともサミットを成功させるようにNECAとしてもコミットしていく所存である。



図14 VZSJ2022の4つのアプローチ：技術・人・マネジメント・国際ルール形成



**Dr. Tommi Alanko, Leader, Task Group on Vision Zero at the Enterprise Level, Global Coalition for Safety and Health at Work, Director of Finnish Institute of Occupational Health (FIOH)**  
**Official Side Event XXII World Congress for Safety and Health at Work 2021, Toronto, Canada, 19 Sept. 2021**  
*"Presenting the Vision Zero Summit Japan 2022 - Redefining Safety, Health and Well-being for the New Normal."*  
 (要旨) 安全衛生グローバル連合が2019年に設立され、私は世界中の企業にVision Zeroを推進する責任者として活動している。その重要な成果として第2回Vision Zero Summitの日本開催があり、現在そのプログラムを鋭意推進しており、日本の企業の方にも是非多数参画頂きたい。  
 (参考動画) <https://fiorp.org/evento/presenting-vision-zero-japan-2022/>  
<https://institute-gsafety.com/news/20210726-1985/>



**梶屋 俊幸、(一社)セーフティグローバル推進機構 (IGSAP) 理事**  
**10th International Conference on Safety of Industrial Automated Systems (SIAS 2021) 6-7 July, Tokyo Japan**  
*"International Standardization of Collaborative Safety through Practice of Conformity Assessment to IGSAP Safety2.0 Standard"*  
 (要旨) 国際標準化や認証はモノだけの世界ではなく、仕組みやマネジメント、そして人材へと移行しており、まさにホリスティックアプローチの重要な時代となってきた。日本でのVision Zero Summitでも私はセッションチェアとして上記視点で協調安全のこれからの国際標準化を世界の専門家と討議する。  
 (参考動画) <https://institute-gsafety.com/news/20210928-2024/>

